

はばたき

2025. No. 102





法人の抱負

理事 江澤 智子

令和7年がスタートしました。今年の6月に竣工予定の新しいグループホームは大久保ランド内に順調に建設が進んでいるところです。毎日、眺めていると真新しい木材は太陽の日差しを浴びてとても清々しく思い、そしてよいよスタートするのだという躍動感の様なものも感じています。このグループホームにより、現在大久保学園の入所利用者80名の内20名の方に引越して頂き、入所定員の減員も検討しています。これは、通所の方も含め多くの方が活動している金堀町の環境を、少しでも落ち着いたものにする事も、目的の大きな一つとしています。大久保学園は昭和47年に定員50名から始まり、行き場の無い障害者の方を少しでも多く受け入れるために居室は複数人で利用していましたが、時

代とともに入所施設は大きくなり、その後、福祉は施設入所からグループホームなどへの地域移行、集団から個別への支援へと変化を遂げていきました。半世紀を経過する本館は老朽化が否めない状況にあり、その為、大久保学園ではこの後、東館、南館、お風呂場の改修、管理棟を含めた本館の建替えも計画をし、利用者の暮らしと職員の環境がより良くなるようにと考えています。

も「働く」その思いで日中活動を進めてきた大久保学園でも、高齢者のデイサービスを参考にした活動を取り入れるなど試行錯誤を繰り返しながら今日に至っています。

医療的ケア、重度心身障害者、強度行動障害など、これからの福祉のニーズに即応し変化し続け、様々な障害をお持ちの方々の暮らしを支える「求められる法人」「期待される法人」を目指していきたいと思います。そして、何よりも大事なものは人材です。採用戦国時代と言われるほど、どの業界も人手不足であり、魅力のある法人となり、働く仲間も集めていくことが大切だと考えています。法人が設立され54年目を迎えました。大久保学園が今あるのも、900人の利用者の方と、400人の職員の存在があるからです。そして、これからも在り続けていくために、人と人との絆を大事に、保護者、ご家族、職員を大切にしたい法人でありたいと思っています。

新設グループホーム

大久保学園 友田 陽子

先月ヘルメットを着用して現在建設中のグループホームの中に入ることが出来ました。骨組みの段階ではありましたが、実際の居室の広さなどを感じ、図面上だけでなくより具体的な想像を持つことが出来ました。ここから内装工事に向けて壁の色やコンセントの位置など、まだまだ詳細を詰めていきたいと思えます。

建物には夏頃完成予定です。そこからは「落ち着ける家・空間」にしていき、ここに住まう利用者さんが喜ぶ顔を思い浮かべながらチーム一丸となつて取り組んでまいります。

新設グループホームの取り組みが始まり、1年半程度経過しました。1つの建物を建設するためにこれ程の時間がかかり、多くの人が関わって様々な検討を重ねたうえで出来上がっていくと考えると責任を感じると同時に、日頃の業務の中でも利用者さんの困りごとにより目が向くようになりました。段差の多さや浴槽の高さ、手すりの位置といった利用者さんが口に出せない部分もハード面を整えることにより、暮らしやすさに



働く思い～利用者に寄り添って～

介護保険サービス併用について

大久保学園 中澤 正美

現在、グループホームには100名の方が利用されています。その内65歳のお誕生日を迎えている方は22名。介護保険を取得された方は14名いらっしゃいます。認定を受け介護保険を取得する事によって、障害福祉サービスと介護保険サービスを効果的に利用する事により生活の質を大きく向上させる事が出来ます。

デイサービスを利用されている方には体力・歩行の維持・向上を目指した機能訓練や大きな浴槽でのびのびと入れる入浴などのサービスを計画に盛り込んでいます。中には、デイサービスのご利用に不安を抱いている方も見学に行く事で気持ちが前向きになり今では行く日を心待ちにされ、週末の楽しみがで、日々の活動にメリハリのある生活を送ることが出来るようになっていきます。

また、ご家族の方の想いとして毎日を楽しく健康に過ごして欲しいとの願いの元、笑顔で通われているとの話を職員から聞いて安心されています。他にも福祉用具貸与のサービスを受け、介護ベッドを導入された方は起き上がりや体位交換が楽になり、腰の痛みなどが軽減されています。

年齢を重ねても大久保学園で毎日を楽し



く笑顔で過ごす事が私たちが支援に繋がっております。

新たな仲間によせる思い

みどり園 矢吹 亮介

みどり園では、年末年始にかけて3名の利用者を新たな仲間として迎え入れることとなりました。彼らはこれまで児童施設で生活されてきたり、長い間在宅で保護者と生活してきた方々です。今までは違う生活環境となるみどり園で少しでも不安が解消されるように、迎え入れる側として事前にご本人のことを伺ってきました。様々な生い立ちの中で思いもかけず生活の場が変わってしまう。入所の選択をすることもあったかもしれない。移りゆく生活や人生を、ご本人のペースや趣向に寄り添いながら、少しでも豊かで穏やかな日々の暮らしとなるように、チームとして全力でサポートしています。

様々なかたちで退所される方を見送り、また新たな方々との縁が繋がっていく。その繰り返しの中で丁寧に、安心していただけるよう今までも、利用者との笑顔と安心さ

と信頼関係を喜びに変えて向き合っております。



利用者寄り添ったリハビリ・理学療法の実践

梨香園 岩谷 真志



梨香園では重症心身障害児者の利用者が多く在籍しています。私達支援員は外部から招いた理学療法士と連携を取りながら利用者一人ひとりの状況を理解し、彼らの個別のプログラムに沿ったリハビリを日々提供することを大切に

しています。殆どの利用者は会話でのコミュニケーションは取れません。例えば、緊張で体が力が入り、腕が折れ曲がってしまうことで、伸ばすなどのリハビリが思うように行えない方がいます。その方にリハビリを行うには、まず、緊張で発汗していることがあるので汗を拭き取ります。次に、親指を伸ばすことで手のひらの力みを取り、手全体の緊張を取り除くことで徐々に腕を伸ばすことが出来るようになります。このように、利用者が抱える問題点的な確な支援を行う事で安心して取り組めるリハビリ環境を整えています。身体機能の維持は利用者や保護者などの生活の質を向上させ、日常生活を豊かにするために重要な課題だと感じています。利用者寄り添いながら共に歩むことが私達支援員の仕事です。日々全力で取り組んでいきたいと思っております。

働く思い～利用者に寄り添って～

利用者とはパン作りを通じて

ふなばし工房 國島 伸也

ブーランジェリーふなばし工房では手作りパンと焼菓子の製造販売を行っています。職員6名と利用者4名が二和向台にバスや電車を使って通ってきています。交代制で朝の5時から業務に入る人。遅番で19時まで仕事をする人。皆、お店にきて働く意識が高く、一生懸命パン作りの仕事に向き合っています。

パン作りで難しいのは焼く温度と湿度の調整でパンに影響がでてしまうことです。パン生地は生きもの。毎日が時間との勝負で少しの時間でも発酵が遅れると食感や味も変わってきてしまいます。午前中は目まぐるしい忙しさです。

利用者においてはそれぞれの分担場所に従って、計量から生地づくり、具材の仕込み、成型、分割まで様々な仕事に取り組んでいます。各工程を繰り返し練習し、店頭に並ぶまでのレベルまでできるようになった時の嬉しそうな笑顔。常連さんから「パンおいしかったよ」と声をかけられた時の「ありがとうございます」と応える誇らしげな姿は自身も見ていて嬉しく感じます。

今後も地域の皆さまに「おいしい」と言ってもらえるお店作りを目指して全員で頑張ります。



利用者の就労支援に携わって

代宿地域支援センター 岡庭 慎

私は昨年の11月から今年の1月にかけて、代宿グループホーム利用者Kさんの就労支援に携わらせて頂きました。Kさんは10年近く老人ホームの厨房で早朝から働いていましたが、昨年10月に会社が厨房業務から事業撤退することになり、Kさんは職を失いました。Kさんは60代後半ですが、「まだまだ働きたい」との彼の言葉がありました。そこで相談支援専門員や就労支援センターの方にも協力を得て再就職を目指しました。



Kさんは、無遅刻無欠勤、黙々と仕事される方なのですが、自分から挨拶することやお話することが苦手で、再就職の第一関門の採用面接に不安がありました。そこで、退職してから再就職にいたるまでの2カ月間に、グループホームから代宿地域支援センターに通っていただき、採用面接突破に向け職員が一丸となって、挨拶の仕方や模擬面接、スーツの準備などでサポートしました。

その結果、今年1月老人ホームで清掃業務を担うことになり、Kさんからの「ほっとした」という言葉に、私自身も喜びを感じ、応援し続けたいと思いました。

地域生活支援拠点等コーディネーター事業

大久保学園 飯塚 翔太



船橋市では令和元年10月より地域生活支援等拠点事業を法人が船橋市障害福祉課より委託を受けて実施しております。拠点事業とは、障害者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据えて、

障害者が地域で安心して暮らしているよう地域全体で支えていく仕組みです。また拠点事業の一部の機能として船橋市グループホーム(以下GH)連絡協議会事務局の設置をしています。船橋市では予てより、GHの空室情報が明確に示されておらず、各施設や法人毎の管理となっていました。その為、利用を希望される方は都度、事業所に直接電話をして確認をしなければならぬ状態でした。その課題解決に向けて、GH連絡協議会事務局を拠点事業の一部として運用しています。

拠点事業が始まった事によって「自分にもしもの事があつたらどうしよう」といった漠然とした不安からの解放、また方が一に備えたセーフティネットがあるという事が、今後船橋市で安心して暮らしていく要因の一つになると思います。多くの方々に、この拠点事業を知って貰えるよう今後も周知啓発を重ねていきたいと思っています。

成人を祝う会



大久保学園

濱田さくらさん

三神 祥吾さん

難波 慈樹さん

その他1名

ふなばし工房

新井 翔さん

光風みどり園

廣瀬 悠介さん

梨香園

竹垣 琥珀さん

代宿地域支援センター

池田 向陽さん



成人を祝う会

光風みどり園 鈴木 孝弘

法人では毎年、事業所ごとで成人を迎えた利用者さんへお祝いのセレモニーを行っています。今年は大久保学園生活介護の方合わせて2名、とよとみみらい生活介護で2名、ふなばし工房で1名、光風みどり園で1名、梨香園で1名、代宿地域支援センターで1名、計8名の利用者さんがめでたく20歳を迎えられました。おめでとうございます。大人としての新しい門出を法人職員一同心よりお祝い申し上げます。

当日は事業所ごとに利用者さん、職員皆でお祝いのケーキを食べ、拍手の中、仲間から花束の贈呈やお祝いの言葉を送りました。今年も大変心あたたまるひと時となりました。

障害者週間のポスター表彰



先日、障害者週間啓発ポスターに応募していた絵が賞を頂きました。

みどりの家式番館の飯塚知佳子さんの描いた絵とユニットCの利用者の方が皆さんで描いた絵です。令和6年11月27日我孫子市の方が来園し、飯塚さんとユニットCを代表して、三澤昌行さんが賞状を受け取りました。



わかば会 忘年会

令和6年度わかば会会長 神谷 健太

わかば会では一年間の慰労の意味も含め忘年会を実施しております。今回もホテルグリーンタワー幕張を会場として187名の職員が集まりました。

開催が決まると余興を何にするかでも悩まします。楽しんで頂くようなイベントにしようと頭を捻りますが、会を重ねることに何をしようかと大きく迷います。そんな中で今回の余興を決めるきっかけは「昔は大久保学園も年末行事で利用者と一緒にお餅つきをしてきた。しかし、近年は利用者の高齢化もあり、お餅の提供も難しくなりました。餅つきを経験したことのない職員もきつと多いだろう。」という、千日理事長からの話でした。そこから餅つきを余興にしようかと決めて準備を進め、餅を蒸かす機材のレンタル、大久保学園にある臼・杵の整備、ホテルとの調整を経て当日を迎えました。当日は千日理事長を中心に職員も代わる代わる餅をつき、美味しいできたてのお餅を食べることが出来ました。

3月には年度末の納会を予定しております。事業所の数も増え職員同士も顔を合わせる機会が少なくなっており、懇親の場として盛り上がる会にしていければと考えています。



東の間の休息

大久保学園 福利厚生委員会 眞崎 翔吾



福利厚生の一環として実施している法人の職員旅行を、今年度より3回に分けて行っています。

一回目は6月に越後湯沢温泉、二回目は11月に鬼怒川温泉へ。

複数回に分けた事で少人数になり、普段関わりのない職員同士が交流を深められ、新幹線や特急電車に乗って、その土地の風景を感じながらお酒を片手に。

ゆつくりと温泉に浸かりながら、東の間の安らぎを感じられた旅行にされたのではないのでしょうか。

私は今年度係として、参加人数は230名近くとなる中、各事業所の福利厚生委員会と綿密な打ち合わせをしながら、どうしたら皆さんに楽しんでもらえるかと進めて参りました。先の二回では内容はどうすると楽しくなるのか、日にちを追うごとに各事業所や旅行店のやりとりが増え、本当にうまくいくのだろうか...と、プレッシャーばかりが募る一方でした。

そのような時には理事長をはじめ、いろいろな職員にも相談しながら進めて、満を持して迎えた当日。

宴会では今年度から採用になった職員の自己紹介、カラオケや抽選会等を企画し先の二回は職員の方々からも「楽しかった」とお話を頂きました。

今年度三回目は石和温泉！この二回の経験を活かし、より一層有意義な旅行になるように取り組んで参ります。

後援会

令和六年五月三十日
令和七年二月十七日

- 泰野 俊子・今西モト・大澤征一・矢萩成子・上柿明男
- 佐藤正博・相内勝正・(有)デザイン・みぶ・千葉 勉
- 矢島弘文・伊都一利・(株)野生司環境設計・岸利枝
- 榎野孝子・小倉裕子・染谷寛治・板橋いと子・坂本久美子
- 逆井保・岩下てい子・青野昭子・細澤潤介・岩間家具産業
- 長田全弘・平岡勝彦・山路康一郎・八林和子・武正理恵
- 根本二夫・鈴木キヨ子・大塚建二(株)・豊田直良・細井明子
- 飯塚浩之・村上亨・石川和子・平 敏行・赤土和光
- 井上正記・小淵佳枝・石井三喜雄・後藤 健・伊藤正春
- (株)アークトレン・(株)天野さく泉建設・御園生照治
- 宮田裕子・末広自動車工業(株)・吉野シゲ・飯島由美子
- 川崎裕子・(株)伊賀屋・平山 実・横須賀照治・阪井重次
- 岸 勝弘・長谷部健二・(株)サクラ建設工業・三田洋子
- 旭建設(株)・(株)東進ビルシステム・土田 孝・鈴木葉子
- 石塚 渡・正路 功・吉田三郎・協栄産業(株)
- 千葉共同印刷(株)・大竹泰子・山口みのり・(株)神原・折田幸二
- 橋 勇・吉田幸男・矢作 豊・岩崎 一・大高一男
- (株)ベルキヤン・石神義久・星 浩子・泉澤正博・宮崎正光
- 飯塚裕治・加藤精一・村島哲男・高橋伸幸・関 福二
- 石井莊也・齋藤 一・前田道路(株)・鈴木義夫・片平寛昭
- 山崎孝子・加藤浩幸・白井徳子・長尾景子・末延久子
- 杉本浩司・渡邊弘子・浅見二郎・伊藤好秋・小野和子
- 川尻 一・高橋晴昭・加藤とし子・日下部弘子・曾我陽子
- 榎井イチ子・小松須寿子・福田美智子・栗原正治・渡邊幸子
- 柳原憲治・藤井松雄・上村美保・山下裕子・梨本美佐緒
- 鈴木直樹・工藤順子・橋本 一・田内恵子・泉澤直子
- 青柳美和子・宮崎昌利・広文堂(有)・(株)高橋忠幸
- 大倉慶久・多賀多恵子・渋谷弥恵子・蓮池暢子・影山敬子
- 加藤和茂・萩原幸男・田中長江・梅津正信・鈴木壽子
- 関澄ちとせ・増田武晴・中山明美・佐々木美和子
- (株)久保田登記測量事務所・原田キク子・中西克樹・清水龍弥
- 榎本誠士・大久保千代子・津浦邦次・中村迪子・平山吉巳
- 近藤裕昭・ムサシ興発(株)・糸川 昇・川嶋奈津子・矢作 榮
- 木原勝美・林みほ子・鈴木成子・谷口久子・飯塚 昇
- 小久保秀之・栗栖 修・矢下春男・(有)船橋住宅エージェン
- 浅井宗三・七海勝則・大塚勝朗・徳村方貴夫・石次弘幸
- 吉内厚子・新井三栄・大川勝幸・桐山 昇・植草一夫
- 山田エリカ・渡邊 晃・波方宗松・岸本直人・塩澤守雄

寄付金

令和六年十一月五日
令和七年二月三日

- 陶山 敷・中川聖治・平塚春江・野尻武生・布施義高
- 関 正治・布施徳子・武藤あさ・高橋良夫・豊田美紀
- 佐藤正彦・石川 清・鈴木初音・平田裕太郎
- 林園緑地建設(株)・本澤正行・柏本幹男・水田笑子・佐藤政子
- 青木富美子・中村ミカ子・石川清隆・内田瑞穂・矢口祐代
- 坂元久子・根岸正国・白倉美智子・川瀬育子・高橋 實
- 小山田栄一・ぜんち共済(株)・宇野純子・(株)フリーマン
- (株)辺工務店・安部明寛・足立純子・吉武政廣・篠 義一
- 葉山 健・多田宏之・國貞勇男・(株)エイシンオート
- 佐藤 学・本 忠信・奥村 博・川上治美・西井建二
- 高安裕子・中田奈津子・並木一夫・林 静子

大久保学園祭

令和六年 十一月三日

お祝い金品

- 後藤克志・矢口祐代・七海勝則・大澤征一・奥村 博
- 大川勝幸・田中みどり・矢下京子・野尻武生・大塚勝朗
- 本澤正行・石川 清・吉内厚子・大久保学園保護者会
- 篠 義一・白倉美智子・長田全弘

ありがとうございました (敬称略)

発行/令和七年二月 二〇二五 一〇二号

発行所/社会福祉法人 大久保学園

TEL 〇四七(四五七)二四六二

FAX 〇四七(四五七)四〇六九

URL <https://www.okubogakuen.or.jp>

E-mail shienka@okubogakuen.or.jp

編集/大久保学園 広報委員会

表題書/中原 強